

「近畿」「北陸」など7地域で改善～リスクは消費における物価高の影響？

2024年7月 大和地域 AI（地域愛）インデックス

経済調査部 主任研究員 溝端 幹雄
主任研究員 新田 堯之
研究員 田邊 美穂
研究員 高須 百華

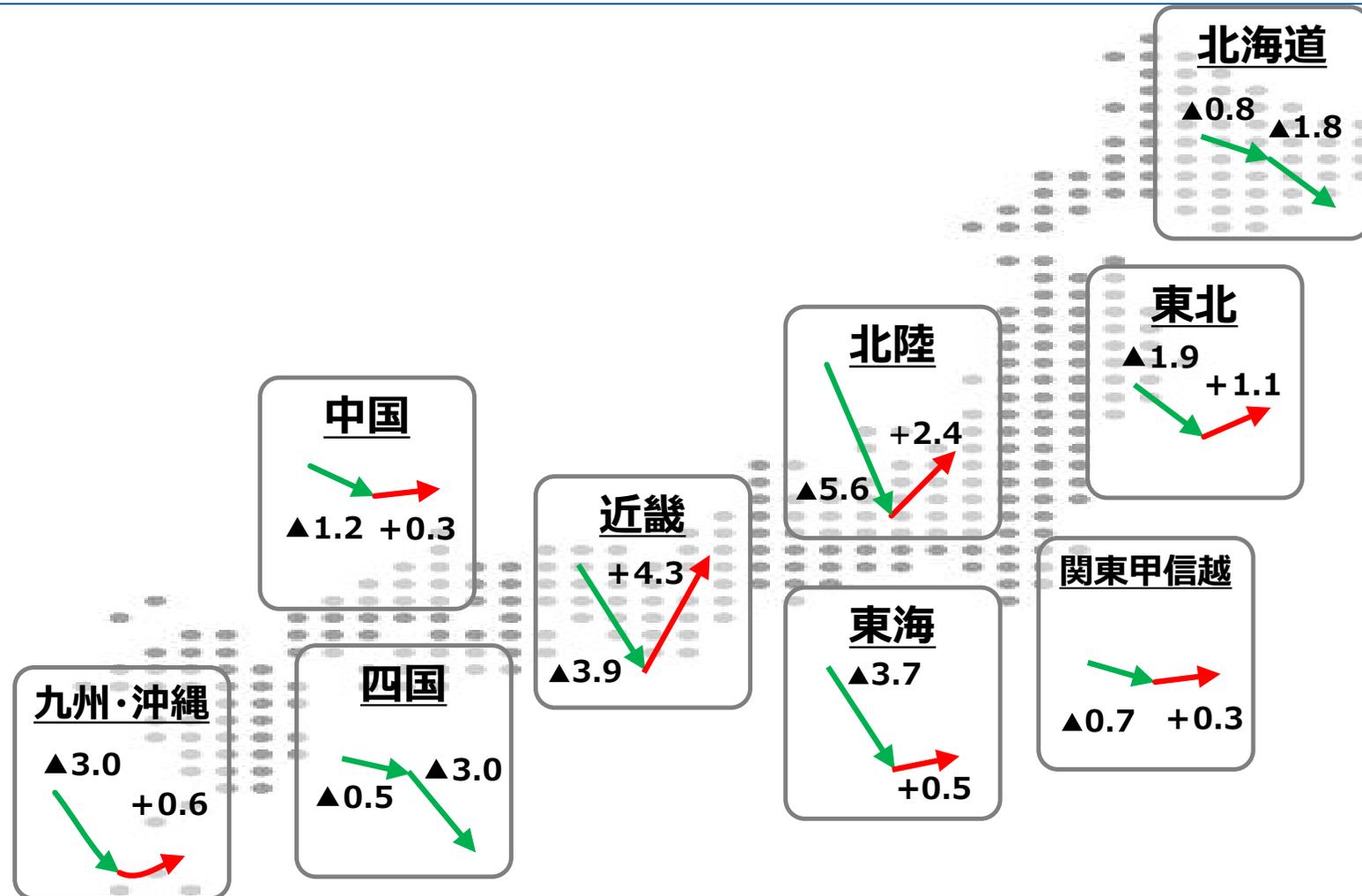
[要約]

- 2024年7月の大和地域 AI（地域愛）インデックスは、「近畿」「北陸」を筆頭に7地域で改善した一方、「四国」「北海道」では悪化した。
- 分野別に見ると、家計関連のインデックスは、消費は「近畿」「北陸」「九州・沖縄」などで改善した。「近畿」ではインバウンド消費により百貨店販売額や外食売上高などが改善し、「北陸」では百貨店・スーパー等の売上高や旅行取扱、ホテル・旅館の宿泊者数が能登半島地震による下押しを受けつつも、復旧復興関連需要や政府による旅行支援制度、新幹線延伸の効果などで回復している。一方、物価高の影響により、「中国」ではコンビニエンスストア売上高や家電販売が悪化し、「四国」では自動車の一部車種の出荷停止や新型コロナウイルスの5類感染症移行後に消費が盛り上がった反動減もあって、乗用車販売や大型小売店の売上などが悪化した。雇用・所得環境は「北陸」で改善した。住宅投資は前回から変化はなかった。企業関連では、生産は「近畿」「北陸」「東北」「九州・沖縄」などで改善した。特に「近畿」は輸送機械、「北陸」は電子部品・デバイス、化学、繊維、「東北」は電子部品・デバイス、「九州・沖縄」は汎用・生産用・業務用機械が持ち直している。一方、「四国」は汎用・生産用機械で持ち直しの動きが一服し、生産が悪化した。設備投資は「関東甲信越」などで改善した。輸出については、「北海道」で悪化した。企業マインドは、「中国」「北陸」「東北」などで改善した一方、「四国」「関東甲信越」は悪化した。特に「中国」では木材・木製品や自動車、「北陸」では宿泊・飲食サービス、「東北」は鉄鋼といった業種が企業マインドへプラスに寄与した。一方、「四国」は宿泊・飲食サービスや卸売などの業種が下押しした。
- 全国的に見ると、経済は緩やかな回復基調にある。特に「北陸」では、地震の影響からの回復が見られ、生産や消費が持ち直している。また、企業の業績見通しや投資意欲の向上が経済活動の活性化に寄与している地域もある。一方で、物価高や一部の自動車メーカーの出荷停止の影響などにより、消費が一部地域で低迷している。今後は、企業の設備投資の改善や、消費の回復が期待される一方、特に消費における物価高の影響には引き続きリスクも存在する。各地域ともに、経済の回復を目指しつつも、こうしたリスクへの対応が求められるだろう。

※ 本レポート作成にあたって、大和地域 AI（地域愛）インデックスのモデル開発はデータドリブンサイエンス部 DS アナリティクス課が担当している。

※ 本レポートの文章は GPT-4 ベースの ChatGPT が出力した内容を基に研究員が執筆した。

大和地域 AI(地域愛)インデックスの推移 (24年1月→4月、24年4月→7月)



(注1) 各地域の数値は、2024年1月から2024年4月の変化幅と2024年4月から7月の変化幅。

(注2) 矢印の赤は上昇、グレーが横ばい、緑が低下。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

ヒートマップ：大和地域 AI(地域愛)インデックスの分野別寄与度（24年4月→7月）

	地域AI	需要項目				生産	企業 マインド
		消費	住宅投資	設備投資	輸出		
北海道	▲1.8						
東北	+1.1						
北陸	+2.4						
関東甲信越	+0.3						
東海	+0.5						
近畿	+4.3						
中国	+0.3						
四国	▲3.0						
九州・沖縄	+0.6						

(注) さくらレポートの個々の文章に対して分野を設定し、大和地域AIインデックスに対する寄与度を算出。

「赤」が濃いほどプラス寄与、「緑」が濃いほどマイナス寄与。主要な分野を記載。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

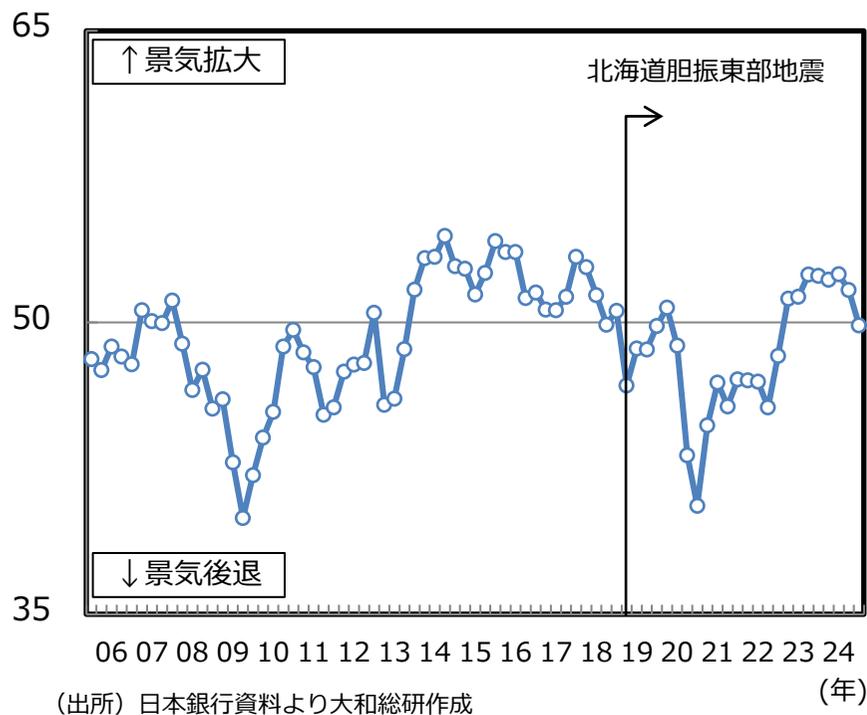
大和地域 AI (地域愛)インデックスの変化 (24年4月→7月) とポイント

北海道	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(24年4月:51.7→7月:49.9)。生産は改善したものの、輸出などの悪化でインデックスは低下した。
東北	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(24年4月:48.6→7月:49.7)。企業マインドや生産の改善がインデックスを押し上げた。
北陸	大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した(24年4月:45.0→7月:47.4)。企業マインド、生産、消費などの改善がインデックスを押し上げた。
関東 甲信越	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(24年4月:49.9→7月:50.2)。設備投資などが改善した一方で、企業マインドが悪化したが、全体としてインデックスは上昇した。
東海	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(24年4月:50.4→7月:50.9)。生産などの改善がインデックスを押し上げた。
近畿	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(24年4月:47.8→7月:52.1)。生産、消費、企業マインドの改善がインデックスを押し上げた。
中国	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(24年4月:51.4→7月:51.7)。企業マインドが改善した一方で、消費が悪化したが、全体としてインデックスは上昇した。
四国	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(24年4月:51.1→7月:48.1)。企業マインドと消費などの悪化がインデックスを押し下げた。
九州・ 沖縄	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(24年4月:49.9→7月:50.5)。消費や生産の改善がインデックスを押し上げた。

北海道経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(24 年 4 月:51.7→7 月:49.9)。
- 生産は改善したものの、輸出などの悪化でインデックスは低下した。
- 生産は輸送機械で改善している。一方、輸出は米国・ASEAN 向けなどのホタテは増加しているものの、中国向けの減少が続いており、減少幅が縮小している。消費もスーパー・コンビニエンスストアでは勢いが弱まっている。

大和地域 AI インデックスの推移



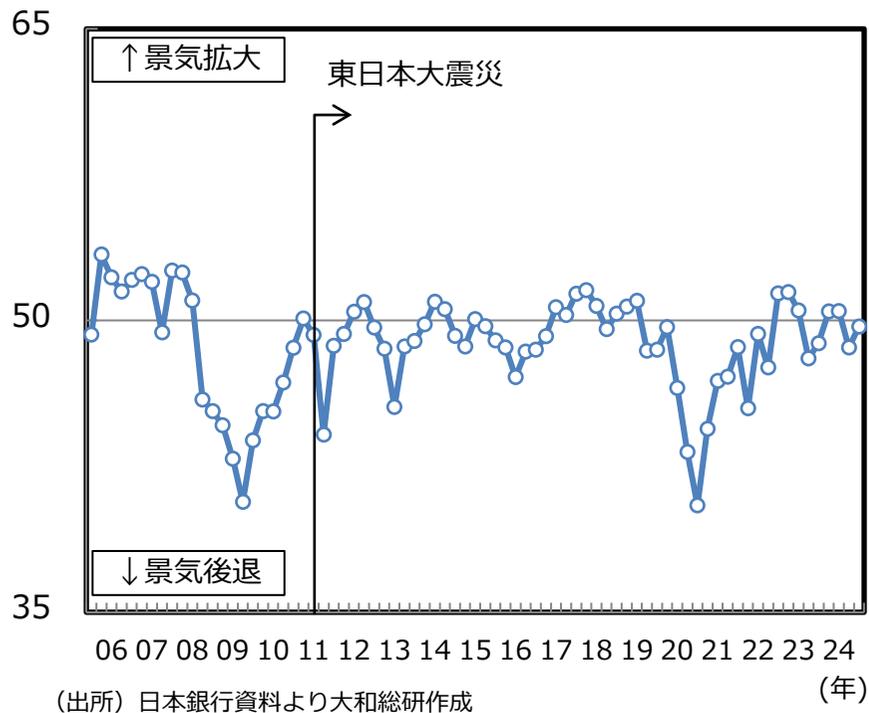
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 4 月	24 年 7 月
【総括判断】	↓
持ち直している	一部に弱めの動きがみられるが、 持ち直している
【個人消費】	↓
物価上昇の影響を受けつつも、 着実に増加している	物価上昇の影響を受けつつも、 堅調に推移している
【生産：輸送機械】	↑
弱めの動きがみられる	持ち直している

東北経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(24 年 4 月:48.6→7 月:49.7)。
- 企業マインドや生産の改善がインデックスを押し上げた。
- 企業マインドは鉄鋼や窯業・土石製品といった業種で改善した。生産は、生成 AI 関連の需要の増加を受けて、データセンター向けの半導体等の生産が高水準に推移しており、電子部品・デバイスで改善した。

大和地域 AI インデックスの推移



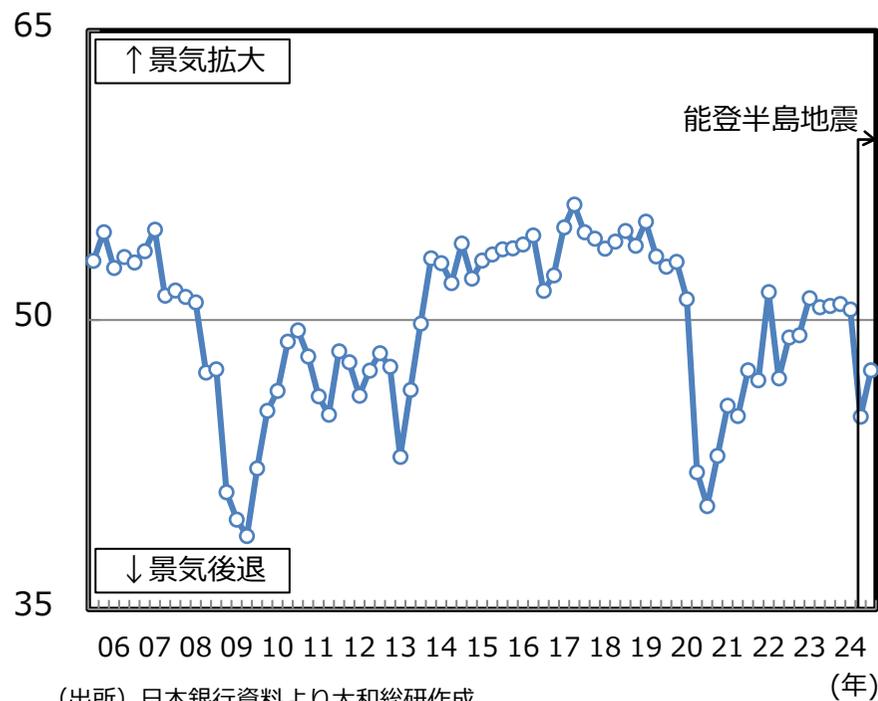
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 4 月	24 年 7 月
【総括判断】	→
緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している
【企業の業況感】	↑
悪化している	改善している
【個人消費】	→
緩やかに回復している	緩やかに回復している

北陸経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、3 四半期ぶりに上昇した(24 年 4 月:45.0→7 月:47.4)。
- 企業マインド、生産、消費などの改善がインデックスを押し上げた。
- 企業マインドは宿泊・飲食サービスで大きく改善。能登半島地震の影響を受けた工場や自動車メーカーによる生産再開などで、電子部品・デバイス、化学、繊維でも生産は改善した。個人消費は、旅行取扱、ホテル・旅館の宿泊者数が回復しており、雇用・所得環境も改善した。

大和地域 AI インデックスの推移



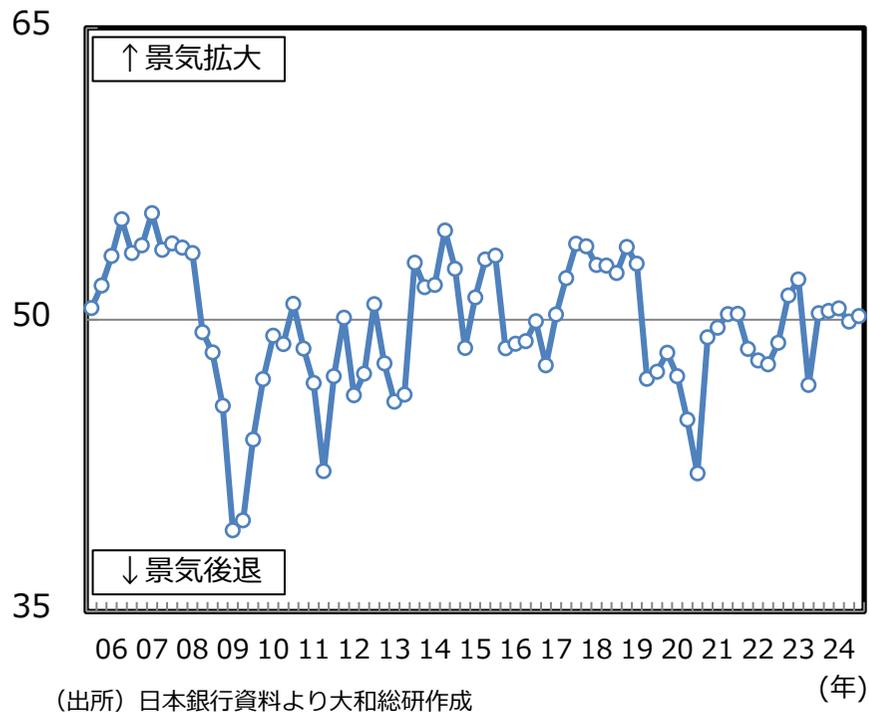
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 4 月	24 年 7 月
【総括判断】	↑
能登半島地震の影響により個人消費や生産の一部に下押しがみられており復旧の途上にあるものの、復旧復興需要や生産正常化が進むことで、持ち直しの動きがみられている	能登半島地震の影響により一部に下押しがみられており復旧の途上にあるものの、復旧復興需要や生産正常化が進むことで、回復に向けた動きがみられている
【企業の業況感】	↑
悪化している	緩やかに改善している
【消費】	↑
地震により大きく減少した後、復旧復興関連需要に加え、一部に休業を余儀なくされる地域があるものの政府による旅行支援制度の効果等もあって、持ち直しつつある	復旧復興関連需要に加え、一部に休業を余儀なくされる地域があるものの政府による旅行支援制度の効果等もあって、回復に向けた動きがみられている

関東甲信越経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(24 年 4 月:49.9→7 月:50.2)。
- 設備投資などが改善した一方で、企業マインドが悪化したが、全体としてインデックスは上昇した。
- 半導体関連の需要の拡大、省人化などを目的として、設備投資が改善した。

大和地域 AI インデックスの推移



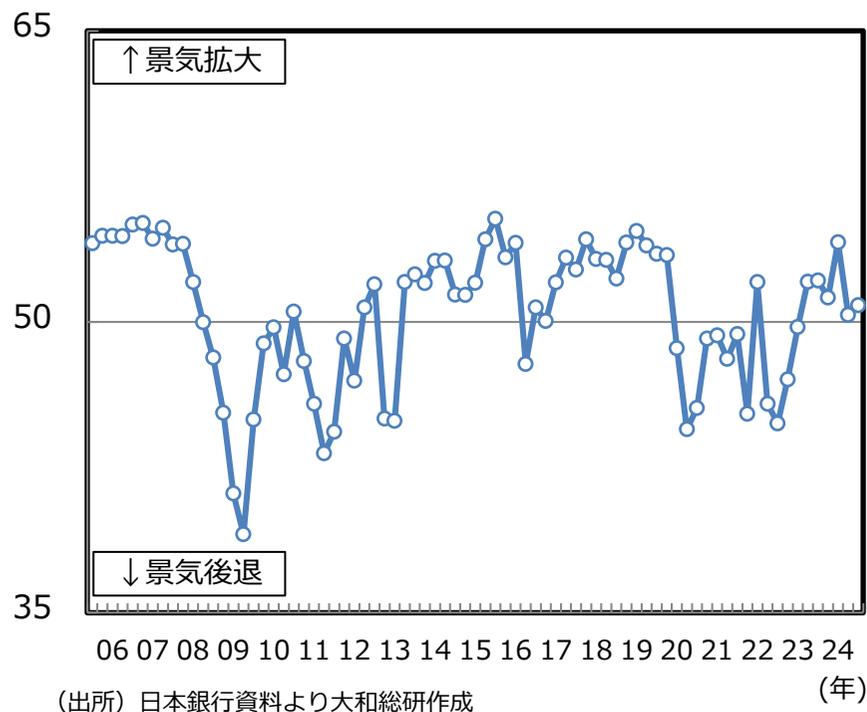
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 4 月	24 年 7 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している
【設備投資】	↑
緩やかに増加している	増加している
【企業の業況感】	↓
改善している	横ばいとなっている

東海経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(24 年 4 月:50.4→7 月:50.9)。
- 生産などの改善がインデックスを押し上げた。
- 供給制約の影響は受けつつも、自動車の受注残が高水準にあることもあり、輸送用機械や鉄鋼の生産が増加基調となっている。個人消費でも、新車発売や生産再開に伴い、乗用車販売において受注・登録台数ともに回復が見込まれている。

大和地域 AI インデックスの推移



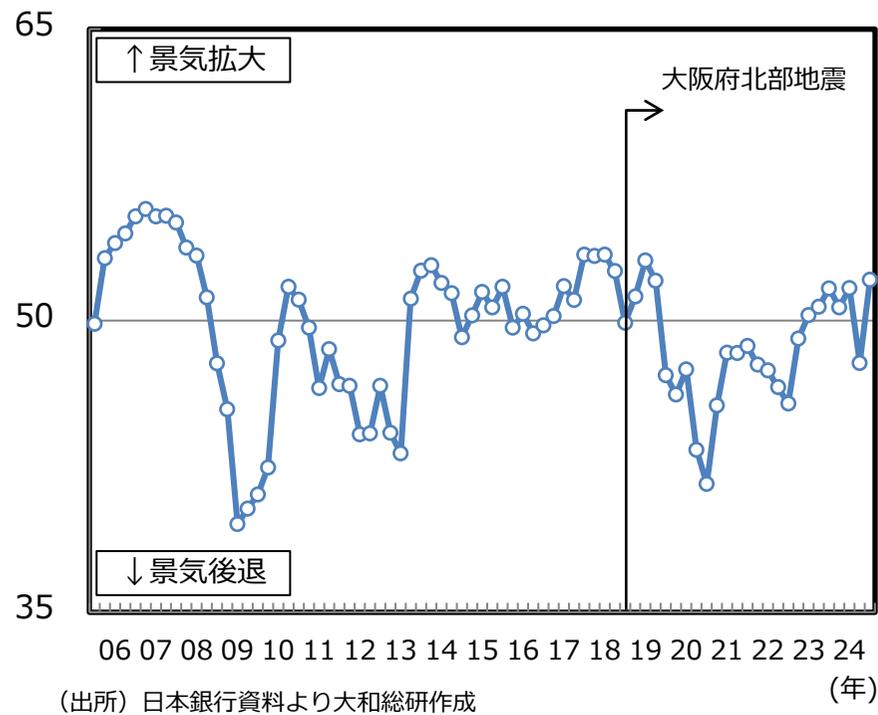
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 4 月	24 年 7 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している	一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している
【設備投資】	→
増加している	増加している
【個人消費：乗用車販売】	↑
一時的に減少している	均してみれば 横ばい圏内で推移している

近畿経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(24 年 4 月:47.8→7 月:52.1)。
- 生産、消費、企業マインドの改善がインデックスを押し上げた。
- 生産は輸送機械で改善した。消費は、インバウンド消費による押し上げやレジャー需要の増加もあり百貨店販売額や外食売上高で改善し、完成車メーカーの出荷再開を受けて乗用車販売でも改善した。

大和地域 AI インデックスの推移



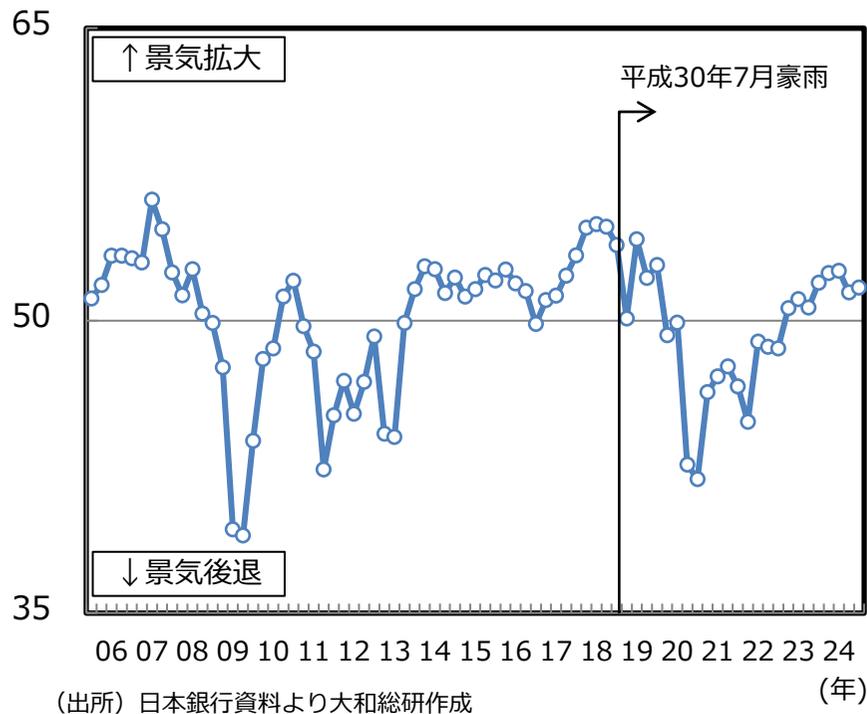
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 4 月	24 年 7 月
【総括判断】	↑
一部に弱めの動きがみられるものの、 基調としては緩やかに持ち直している	一部に弱めの動きがみられるものの、 緩やかに回復している
【個人消費】	↑
一部に弱めの動きがみられるもの の、底堅く推移している	一部に弱めの動きがみられるもの の、緩やかに増加している
【生産】	↑
基調としては横ばい圏内で推移している が、足もとでは、一部自動車メーカーの操 業停止の影響もあって減少している	横ばい圏内で推移している

中国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(24 年 4 月:51.4→7 月:51.7)。
- 企業マインドが改善した一方で、消費が悪化したが、全体としてインデックスは上昇した。
- 企業マインドは木材・木製品や自動車などで改善した。一方、消費は物価高の影響により、コンビニエンスストア売上高や家電販売が悪化した。

大和地域 AI インデックスの推移



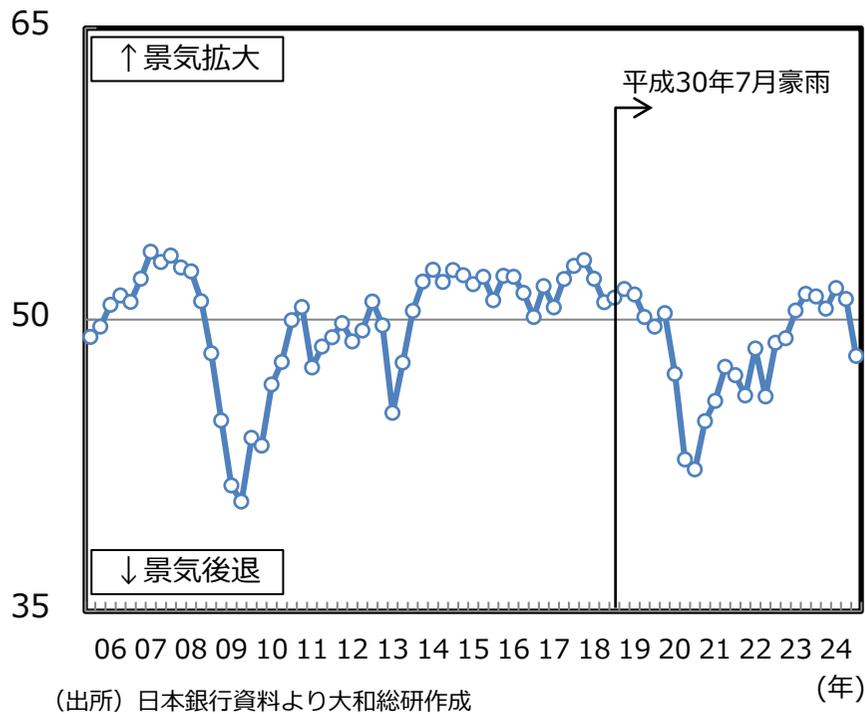
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 4 月	24 年 7 月
【総括判断】	→
緩やかな回復基調にある	緩やかな回復基調にある
【企業の業況感】	↑
幾分悪化している	小幅に改善している
【個人消費】	↓
緩やかに回復している	緩やかな回復基調にある

四国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で下落した(24 年 4 月:51.1→7 月:48.1)。
- 企業マインドと消費などの悪化がインデックスを押し下げた。
- 企業マインドは宿泊・飲食サービスや卸売などで悪化。生産も汎用・生産用機械で勢いが弱まった。消費は、物価高や一部車種の出荷停止、新型コロナウイルスの 5 類感染症移行後に消費が盛り上がった反動減で、乗用車販売や大型小売店の売上などが悪化。

大和地域 AI インデックスの推移



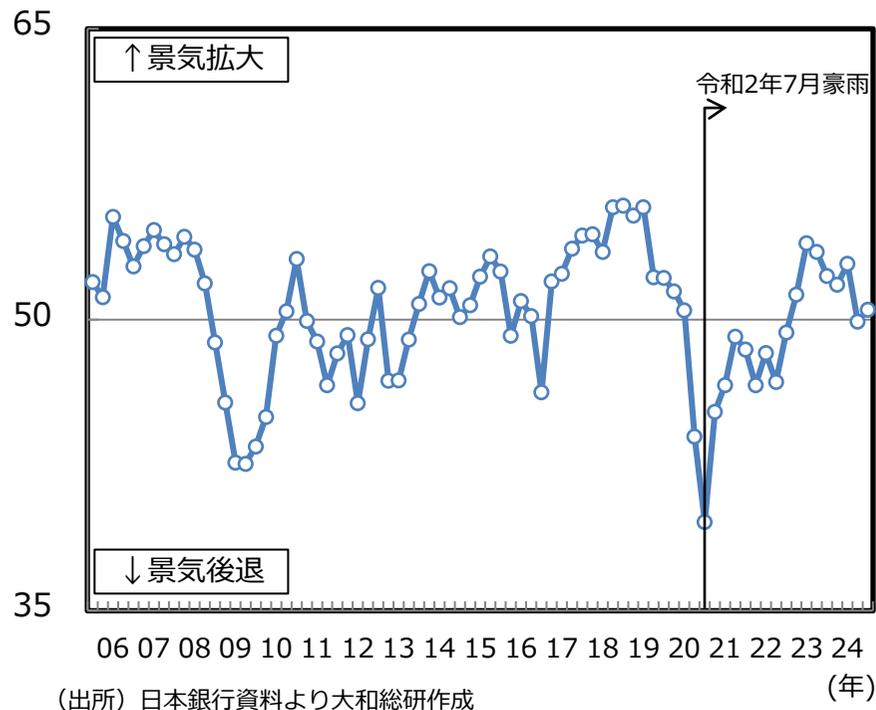
さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 4 月	24 年 7 月
【総括判断】	↓
持ち直している	持ち直しのペースが鈍化している
【企業の業況感】	↓
非製造業を中心に幾分改善している	悪化している
【個人消費】	↓
物価上昇の影響を受けつつも、着実に持ち直している	物価上昇の影響を受けつつも、底堅く推移している

九州・沖縄経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した(24 年 4 月:49.9→7 月:50.5)。
- 消費や生産の改善がインデックスを押し上げた。
- 消費は、一部メーカーの生産停止が解除されて、乗用車新車登録台数が改善した。生産は、中国向けを中心に需要が増加傾向にあり、2024 年度下期以降は AI 関連の受注が回復するとの見方から、汎用・生産用・業務用機械で改善した。

大和地域 AI インデックスの推移



さくらレポートにおける分野別の判断

24 年 4 月	24 年 7 月
【総括判断】	→
一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している	一部に弱めの動きがみられるが、緩やかに回復している
【設備投資】	→
高水準で推移している	高水準で推移している
【生産：汎用・生産用・業務用機械】	↑
一部に弱含みの動きがみられる	持ち直している

本レポートに関して

- 人口減少と地域経済縮小の悪循環を断ち、**地方創生を実現することが我が国の大きな課題**となっている。地方創生の推進には、地域特性に即した政策の実行とともに、**地域の景気の現状を適切に把握**することが必要となる。
- 本レポートの特徴として、**AIモデル**を活用して地域別の景況感を示した「**大和地域 AI(地域愛)インデックス※**」を作成し、分析の基礎的な材料としている。
- 大和地域 AI インデックスを用いて**地域別の景況感をヒストリカルに把握**することにより、**各地域に根ざす金融機関や事業会社の経営**に資する情報を提供できると考えられる。
- 地域経済の実態をよりの確に、かつタイムリーに捉えるために、**インデックス算出のモデル等の見直し**は定期的に行っている。
- 本レポートは、2024年7月8日時点で取得可能なデータに基づいて、作成している。

※ 大和地域 AI（地域愛）インデックスの詳細に関しては、下記レポートを参照。

「大和地域 AI（地域愛）インデックスを用いた地域経済分析」

https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713_012142.html

大和地域 AI(地域愛)インデックスの概要

- 大和地域 AI(地域愛)インデックスとは？

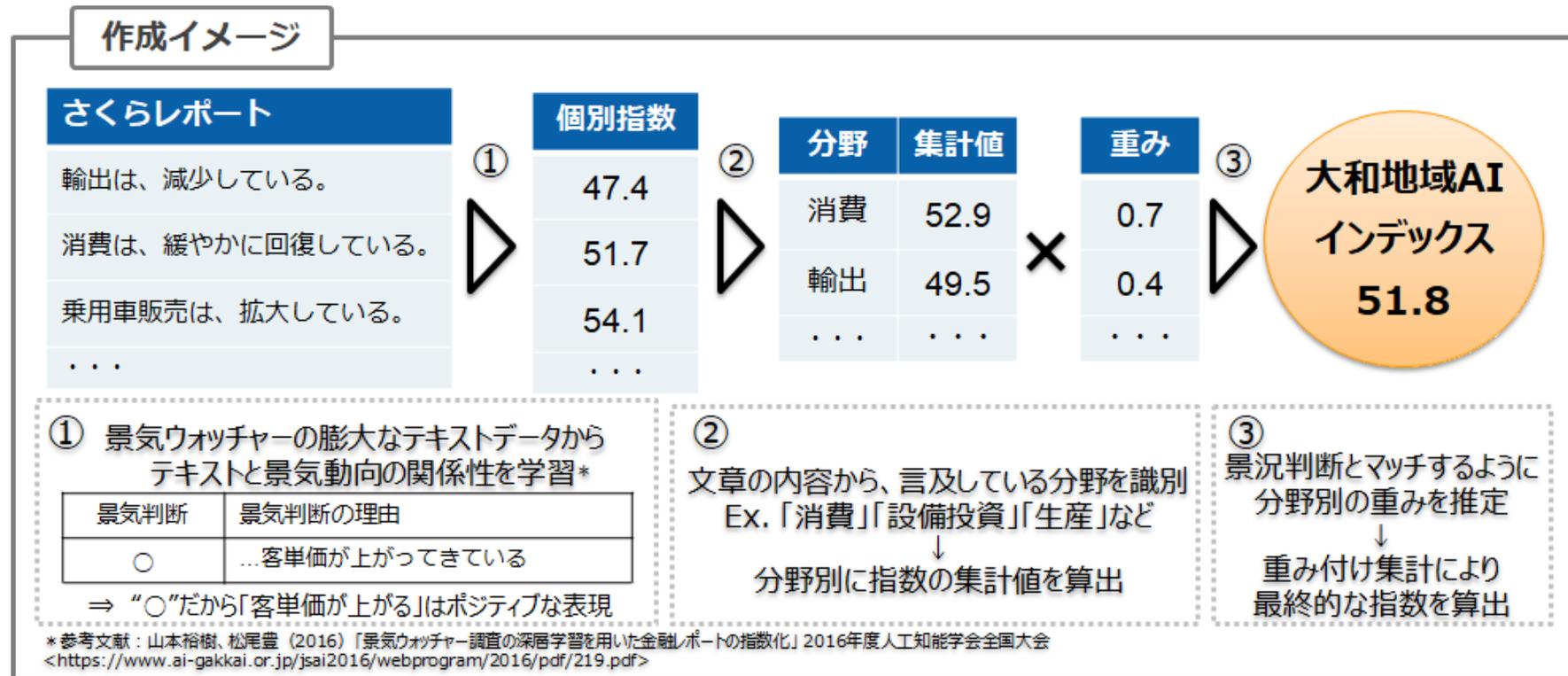
→ **地域別の景況感を AI モデルで算出した指数。**

※大和地域 AI インデックスは地方経済の景況感を正確に測るよう、定期的にリモデルを行う予定である。

- 具体的な作成手法は？

→日本銀行「地域経済報告（さくらレポート）」の**テキストデータ**を、**AI モデル**で指数化。

AI モデルは、景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから、**テキストと景気動向の関係性を学習**。



日本銀行基準における地域区分

- このレポートにおける地域区分は日本銀行基準の地域区分に基づいて執筆している。
- P.5 以降の地域ごとの分析に関しても、原則、下記の地域区分ごとに行っている。

日本銀行基準における地域区分	
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
北陸	富山県、石川県、福井県
関東甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(出所) 日本銀行より大和総研作成